

⑤ 微小乳頭状

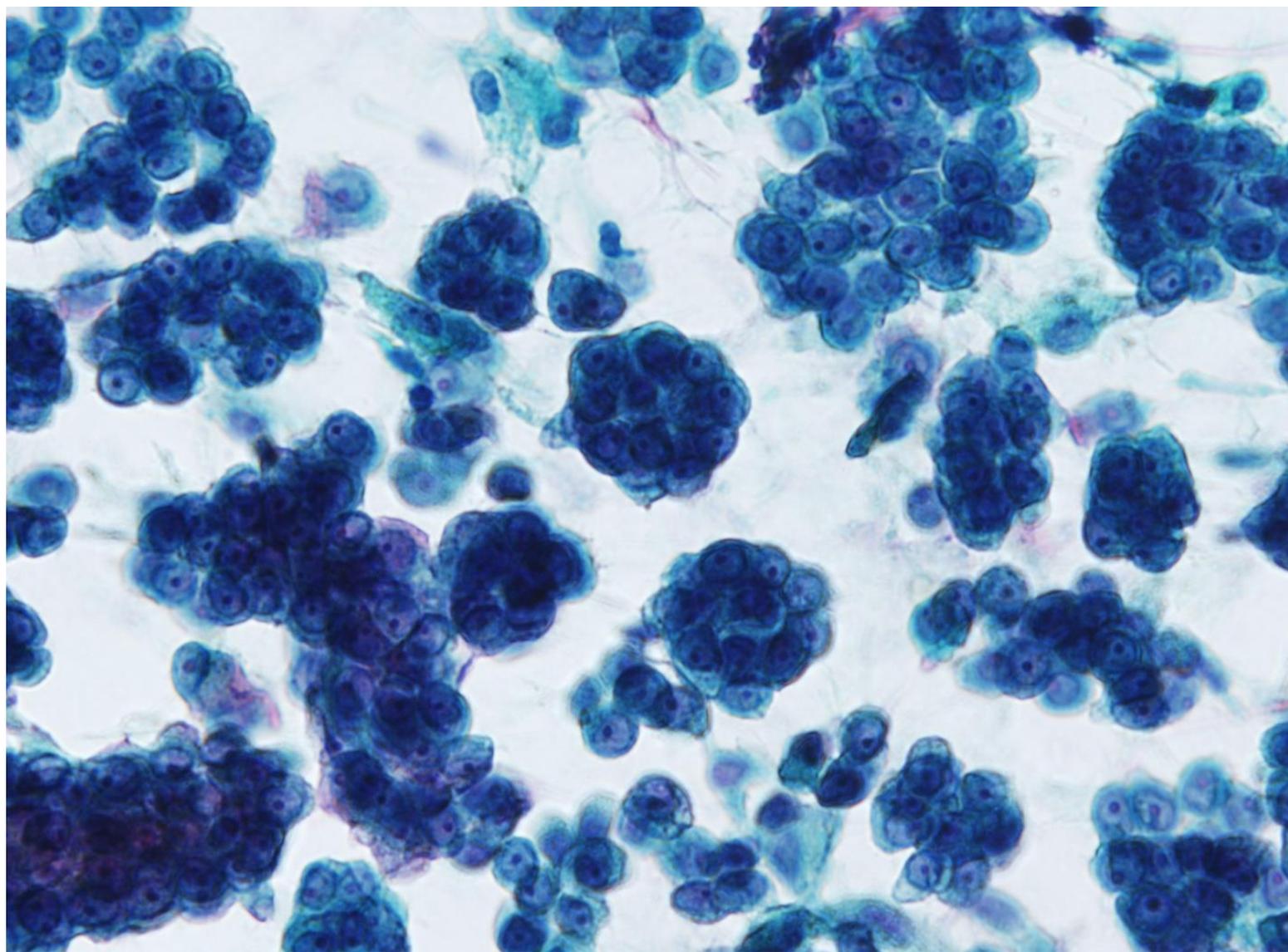
・細胞学的定義

構成細胞数が3～20個程度が主体で、花冠状、球状、桑実状の小型集塊であり、間質軸を伴わない。

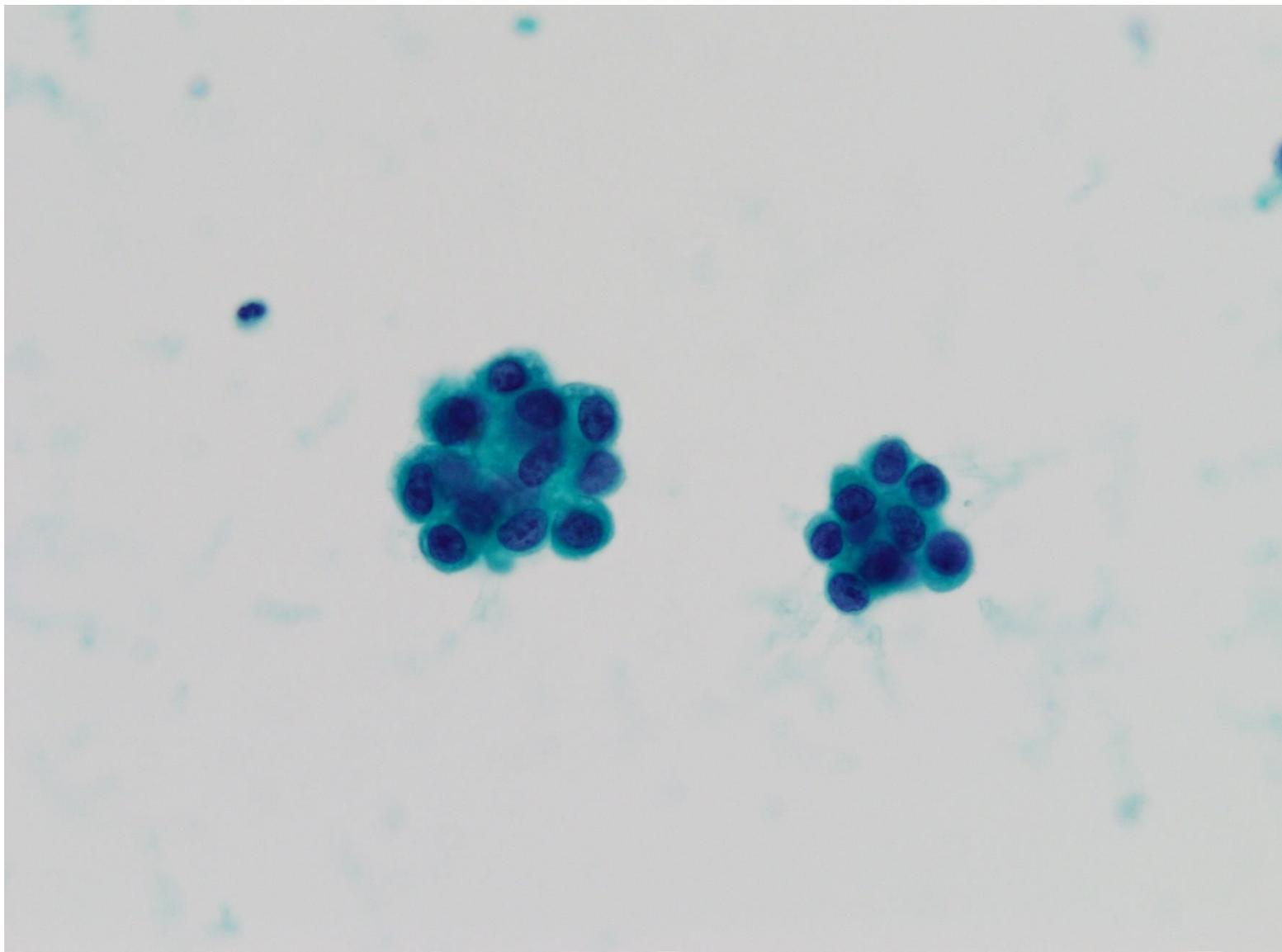
・組織型の推定と補足

組織学的に腺癌では、微小乳頭型腺癌だけではなく、微小乳頭状構造を一部にともなう腺癌でも認められる。細胞学的にも微小乳頭状構造は予後の悪い成分のため、標本上に一部でも明瞭なものがあれば記載することが望ましい。

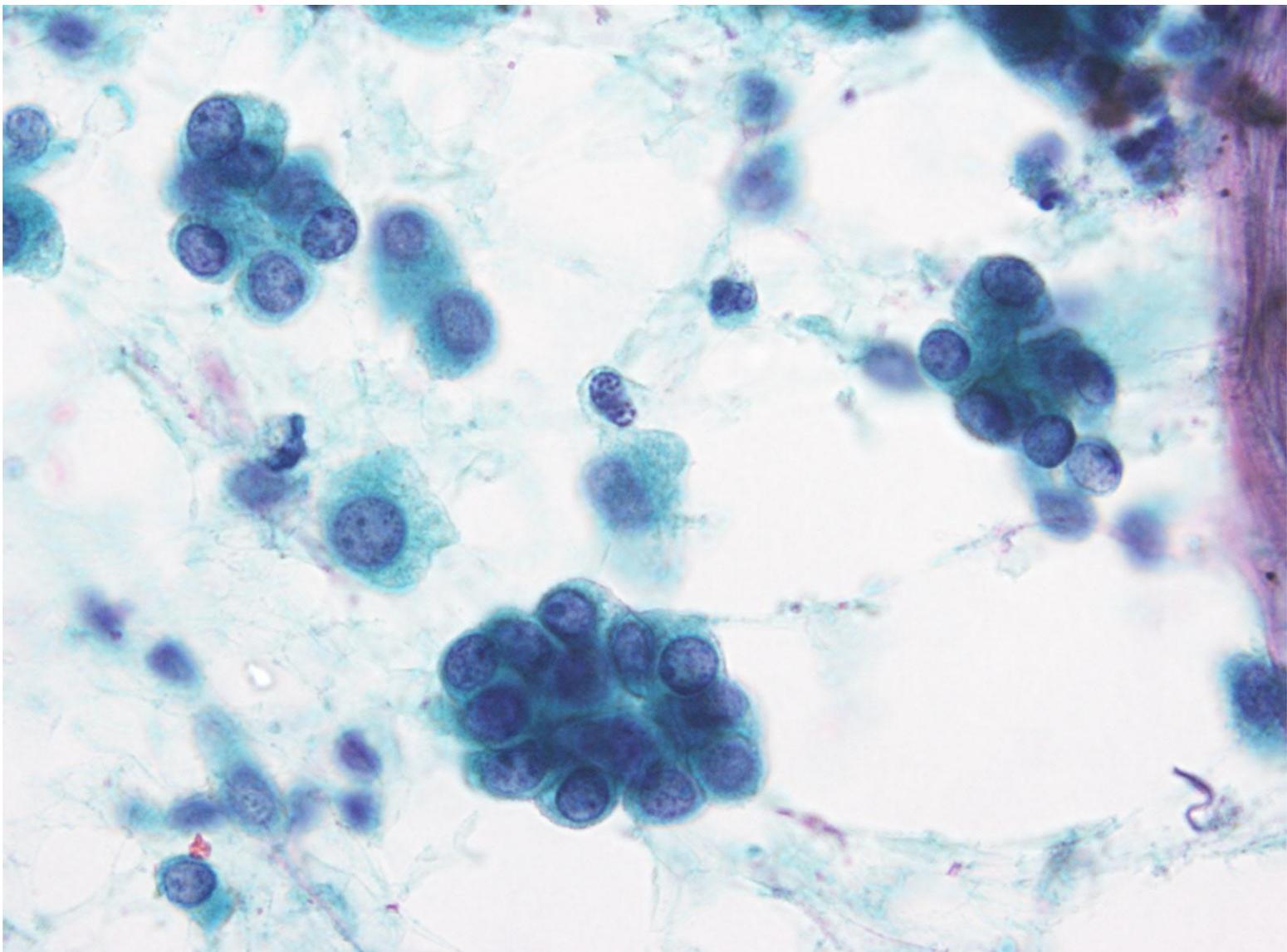
組織学的に扁平上皮癌では、微小乳頭状構造は認められない。そのため、細胞学的に微小乳頭状構造がみられた場合は肺原発腫瘍であれば腺癌となるため、厳密な判定が必要である。ただし、転移性腫瘍であれば、腺癌だけではなく、尿路上皮癌のこともあるので注意が必要である。転移性腫瘍が鑑別にあがる場合は、原発部位の組織型の見直しによる確認を怠ってはならない。



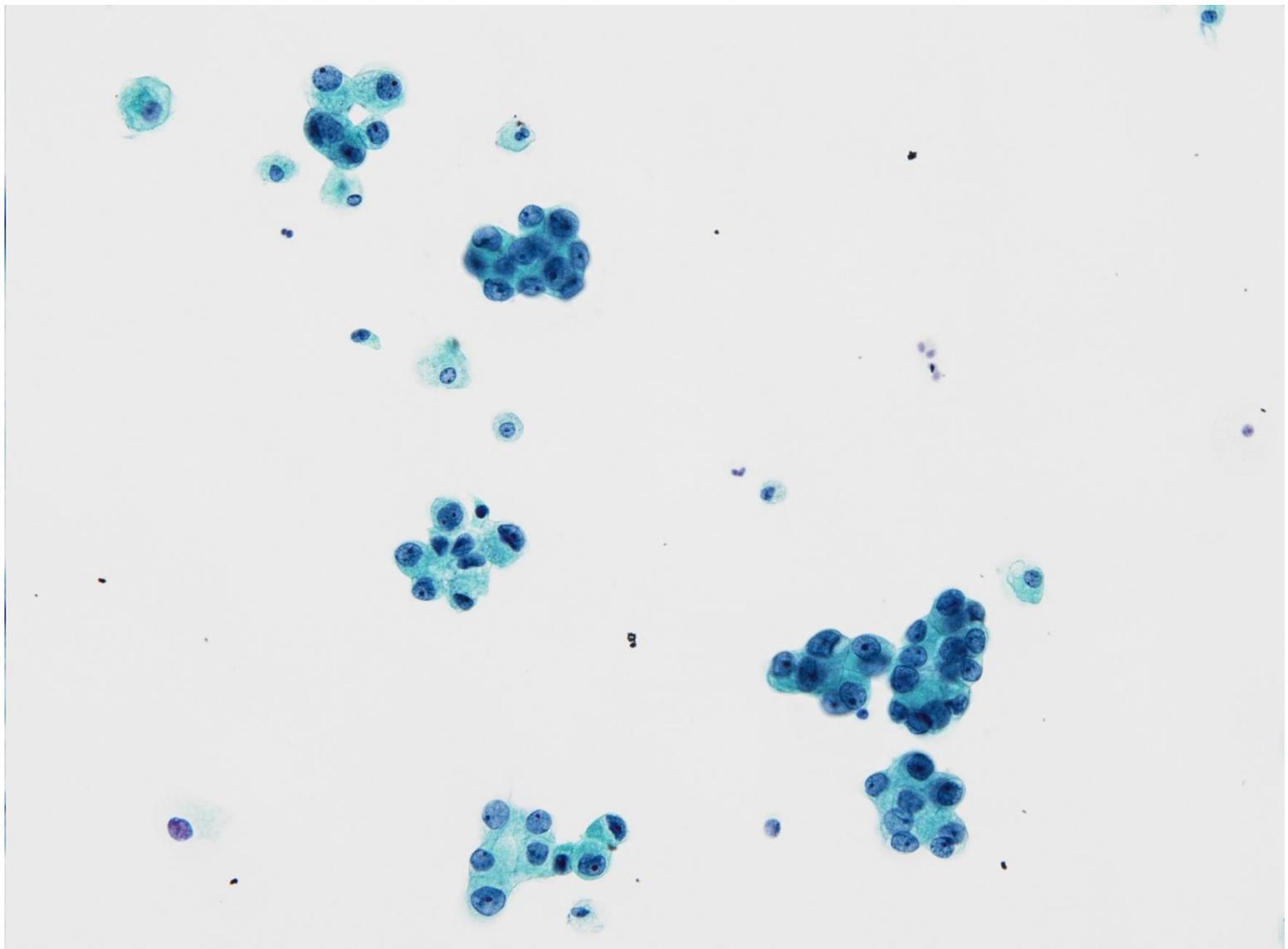
定型例 ⑤-1 (擦過、腺癌、用語の一致率90%) : 20個以下の腫瘍細胞からなる小型集塊が多数認められる。また、周辺部には数か所で20個をこえる中型の集塊も認められる。全体像をみて20個以下の小型集塊が主体であれば微小乳頭状構造と判定する。



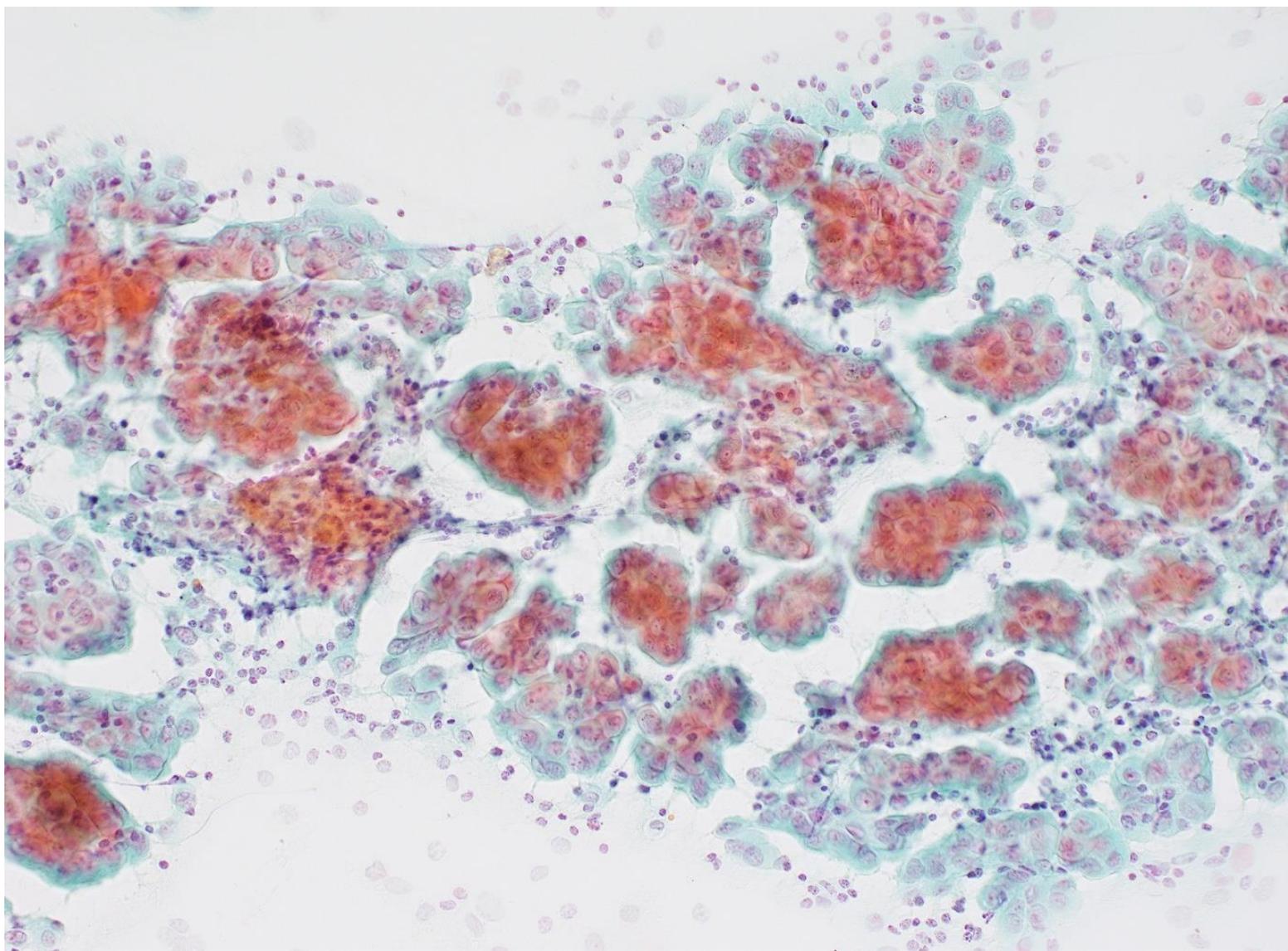
定型例 ⑤-2 (EBUS-TBNA、腺癌、用語の一致率100%) : 2か所に10個前後の腫瘍細胞からなる小型細胞集塊を認める。多数みられるわけではないが、例え2~3か所でも定型像がみられた場合は、微小乳頭状構造と判定する。



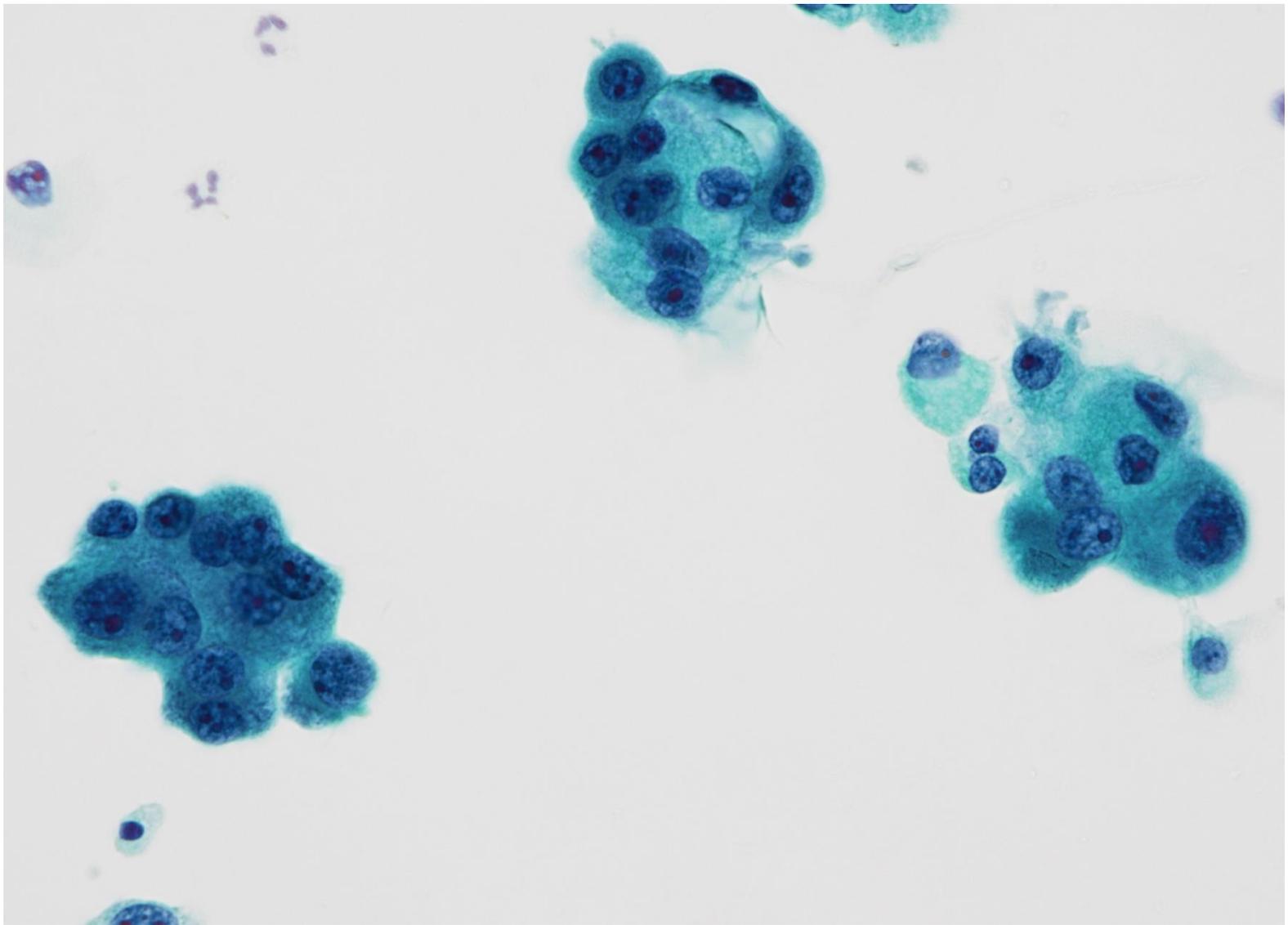
定型例 ⑤-3(擦過、腺癌、用語の一致率100%): 5個前後の腫瘍細胞からなる小型集塊が2か所、15個前後の小型集塊が1か所認められる。他に1~2個程度の腫瘍細胞もみられるが、全体像から微小乳頭状構造と判定する。



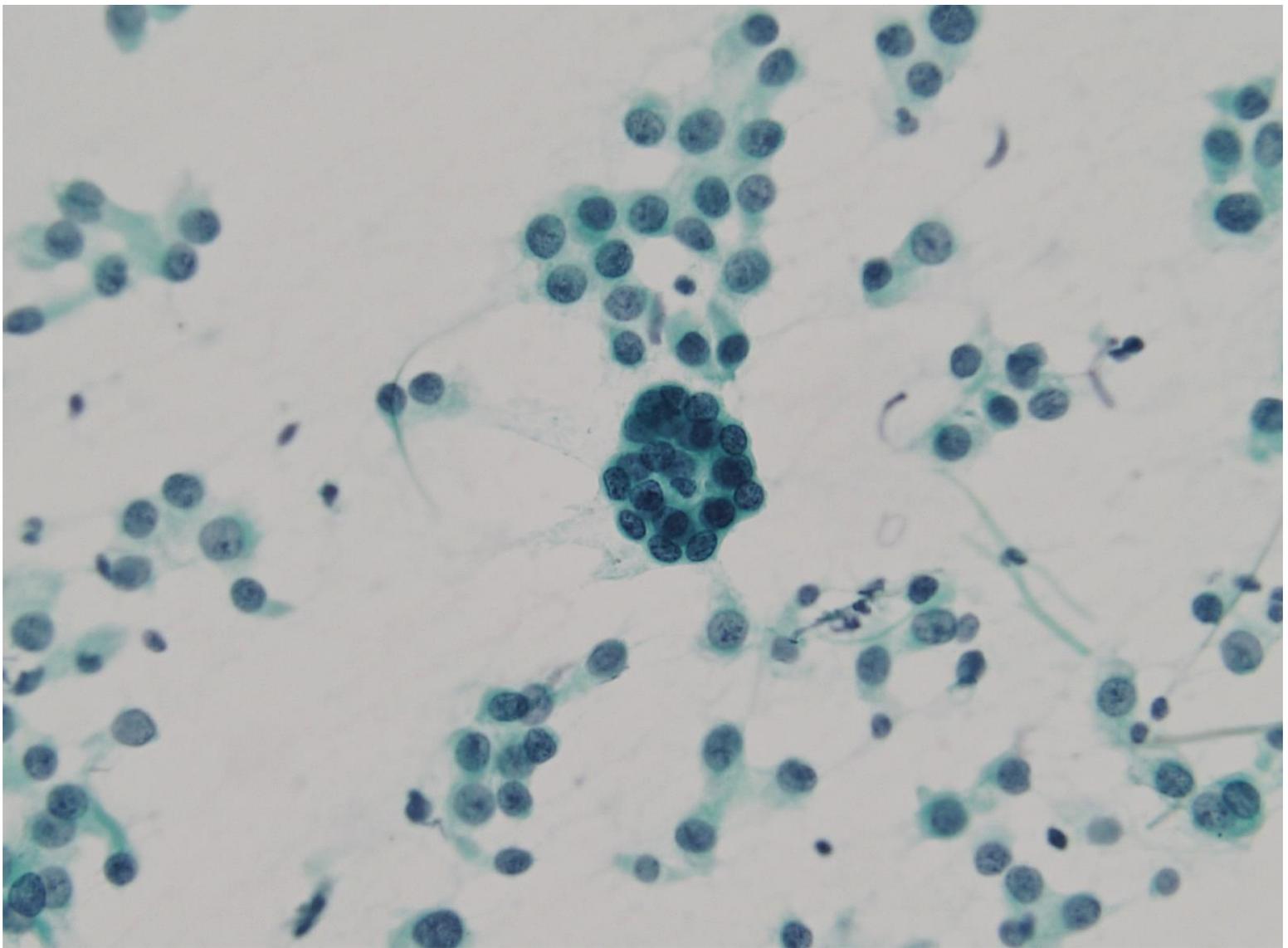
定型例 ⑤-4 (擦過、腺癌、用語の一致率90%) : 5個~15個程度の腫瘍細胞からなる小型集塊が7か所に認められる。全体像から微小乳頭状構造と判定する。



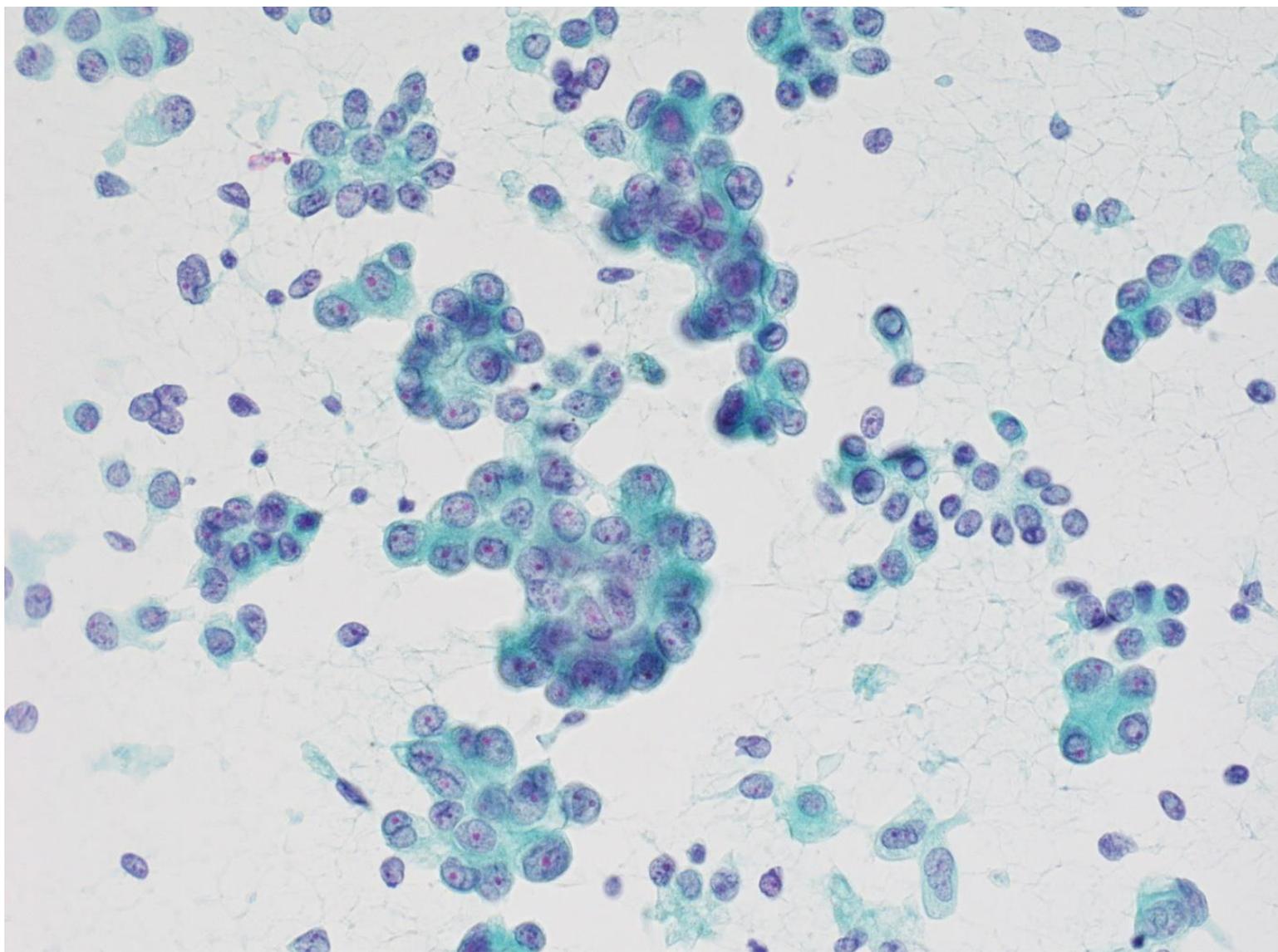
⑤-5(捺印、腺癌、用語の一致率30%): 小型～中型の大きさを示す腫瘍細胞の集塊が多数認められる。一部の集塊は微小乳頭状構造として合うが、半数以上は20個を超えるため今回の定義を満たしていない。このような例では、微小乳頭状や乳頭状を呈する腺癌の増殖部分を反映していると推定される。



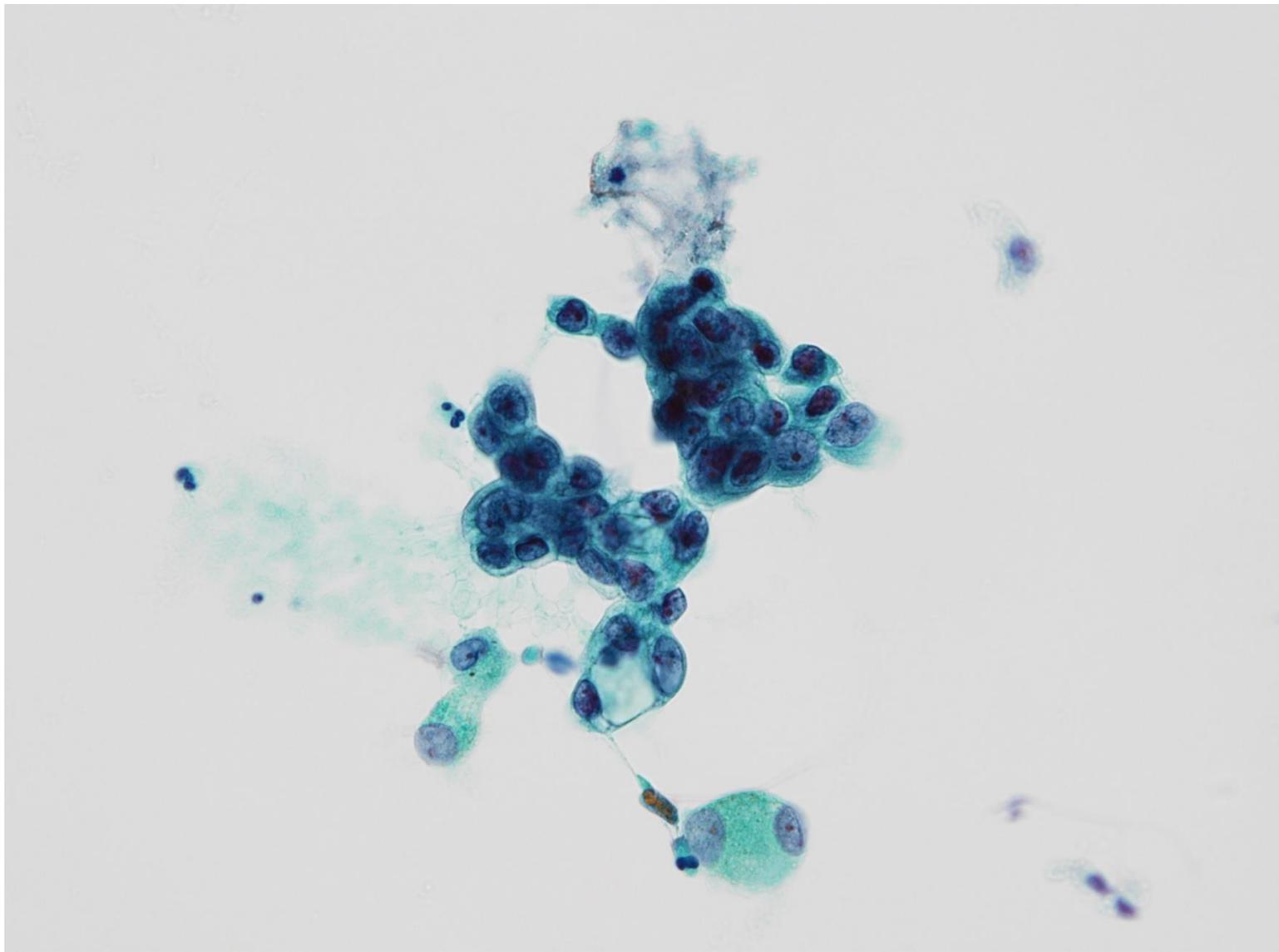
⑤-6(擦過、腺癌、用語の一致率30%):約10個程度の腫瘍細胞からなる小型集塊を3か所に認める。一見、微小乳頭状集塊にもみえるが、腫瘍細胞の単調な配列はみられず、定型的な微小乳頭状構造とは言えない。



⑤-7(擦過、腺癌、用語の一致率50%): 写真中央部に20個前後の腫瘍細胞からなる小型集塊を認める。しかし、周囲には平面的あるいは孤立性の細胞も多数みられ、全体像が合わない。



⑤-8(捺印、腺癌、用語の一致率60%):約5個~30個程度の腫瘍細胞からなる小型~中型の細胞集塊を多数認める。一部の集塊は一見、微小乳頭状構造にもみえるが、それぞれの集塊内では集塊辺縁への核の突出が目立ち、定型像とは言えない。



⑤-9(擦過、腺癌、用語の一致率60%):軽度の重積性を示す中型細胞集塊であるが、配列の乱れが目立ち、花冠状、球状、桑実状の集塊でもないため、微小乳頭状構造とは言えない。